

# 性的関心度の計測

\*Dr. キッチュ

## はじめに

ここ数年の間に日本におけるインターネット環境は急速に進展した。この直接の原因・動機はいかなるものなのであろうか。

省みるに、VHS形式ビデオの普及やかつての国民機・PC9801シリーズの隆盛を導いたのは、同時に提供された安価で良質・安全な性的コンテンツであるという推測が知られている。

ここで、「エロが見たいからインターネットする」という作業仮説を立て、それを調査する資料としてネットワーク上における性的関心度を計測した。

## 従来計測法の検討

ネットワークでの性的関心度を計測するにはどのような方法が妥当であろうか。

### a) アンケート・メールによる調査

この調査は、おもに第一印象の情報を収集するための手段としては有効であるが、いわゆる「定常状態」となった客層の情報は収集できないと考えられる。また、最大の傷害は、「面倒くさい」という点にある。文書表現が不得手である場合も、正しい状況を収集できるとは考えにくい。

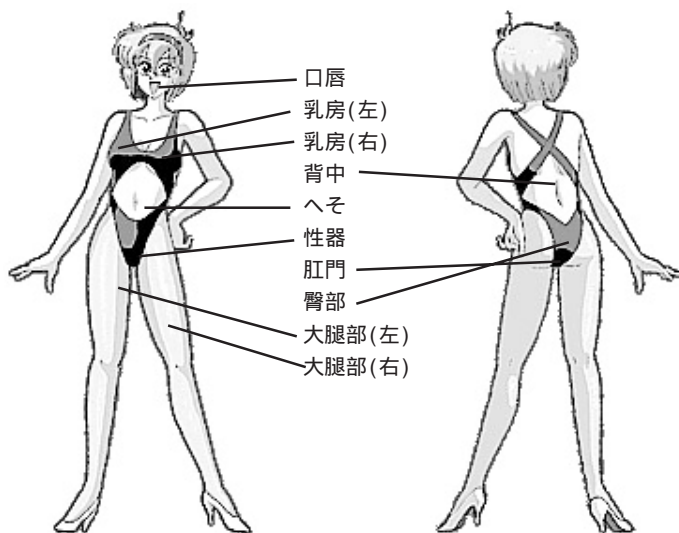


図1 計測用画像と計測箇所(リンク部位)

\* 超越科学研究所・ワークスキッチュ  
マッドサイエンス学会正会員  
Laboratory of Hyper-Science  
Tokyo JAPAN

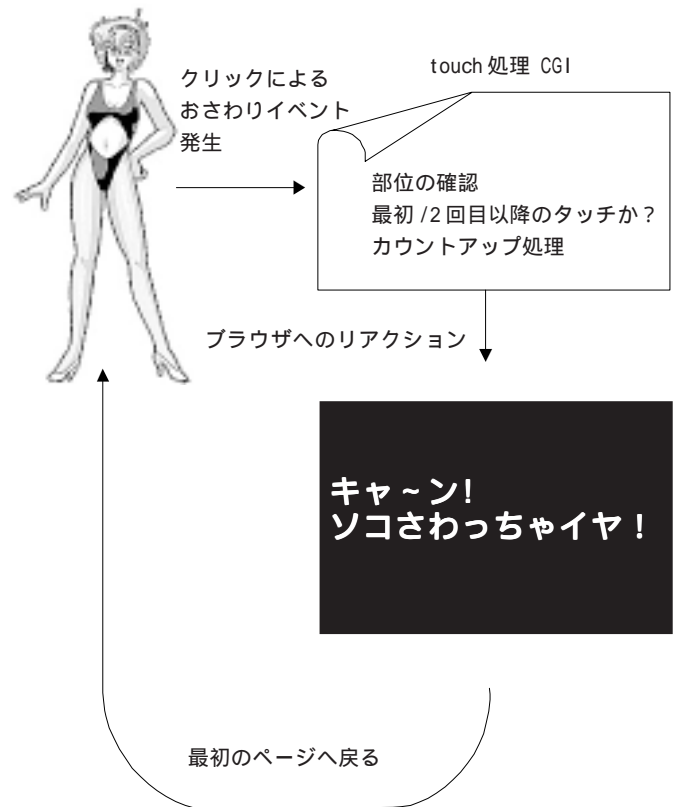


図2 計測システムの動作

### b) アクセスカウンターによる方法

homepageのトップヒットを達成しているのは総て「エロティック」なサイトであるという。このようなサイトにはアクセス頻度を閲覧者にサービスする「アクセスカウンター」が設置されているのが常であり、関心度が高ければそれだけカウント上昇率も高い。また、計測はアクセス頻度をカウントするだけであり、確実性と客観性が高い。

しかしながら、この方法では閲覧者はどの画像のどの部分に関心があるのか、今一つ不明な所がある。

## インタラクティブな計測法

今回、我々は b)の手法に a)の要素を加味した新しい手法を構築した。本手法では、htmlのクリッカブルマッピングを用いて画像の各部位によるリンク先をカウントする事で利用者の性的関心度を計測するものである。

図1、2に、計測に利用した画像と計測システムを示す。画像は「つきなみCOMICS」のご好意により、レースクイーンコスチュームを付けた湯田桐子を起用した。配置場所は「つきなみCOMICSホームページ」のトップページである。

この方式のポイントは、「エロとして作られていない画像で計測する」という点にある。

また、リンクを誘導するコメントも極力避け、リンク部位にマウスが来た場合にのみ、ステータスバーに「きゃ!」等のメッセージを表示するように設定した。

カウントアップ動作は、CGI スクリプトを利用して実行される。この部分には、「とほほのホームページ」提供のCGIカウンタを改造したものを利用した。おさわりのイベントによりCGIは駆動され、

- 1) 触った部位の判定
- 2) ユーザーが最初に触ったか、2回目か
- 3) 判定に基づいたカウントアップ動作

を実行する。

ユーザー特定は、サイトIPアドレスを用いている。したがって、ユーザーが最初にさわったのかが判定できる。場所の特定とこの判定部分が、最初に検討したアンケート的な情報をもたらすようになっており、興味を持ったユーザーがさらに他の部位を触りにいくアクションにより、集計結果に偏向が発生しないように配慮した。なお、この最初かどうかの判定は日付変更により解除される。

判定が終了すると、ユーザーのためにごく簡単なリアクション画面が表示される。この部分も凝りたかっただけであるが、回線におけるグラフィックのスループットを考えると断念せざるを得なかった。

集計結果はテキストファイルに残され、結果が研究者に送信される。また、隠しページからも参照できるようになっている。

### 集計結果と考察

図3、4に本実験の計測結果を示す。横軸は日数、縦軸はおさわりの回数である。

最もおさわりの部分は性器であり、次いで臀部が集計を伸ばしている。

性器や臀部が触られるのは、Web上固有の匿名性のため、より直接的なアクションにも比較的抵抗が少ないためである。逆に、この部位が1位でない場合はかえって社会心理的な問題があるとみなせる。

もっとも興味深いのは、口唇の結果である。最初に触った場所としては、臀部に次いで3位であるのにも関わらず、全回数で比較すると、背中や乳房に追抜かれている。

人間において、唇や耳たぶはペッティング段階において最もアクセスされる部位である。

特に唇を制する事は、相手を性的興奮させるシグナルであり、こちらの好意・意志の現れでもある。

次に興味あるのは全おさわりの回数における背中のカウントが高い事であろう。なんと、胸へのタッチよりも集計が多い。

この2例から、以下の動作が推察できる。

- 1) 口唇へのタッチとリアクションにより、このシステムにアクセスした者は、潜在的な性行動を誘導される。
- 2) 次に仮想的な相手を抱きしめるために、背中にタッチする。もしくは交尾のため後背位状態へ移行しようとする。

その後は、もっとも関心のある乳房、臀部、性器周

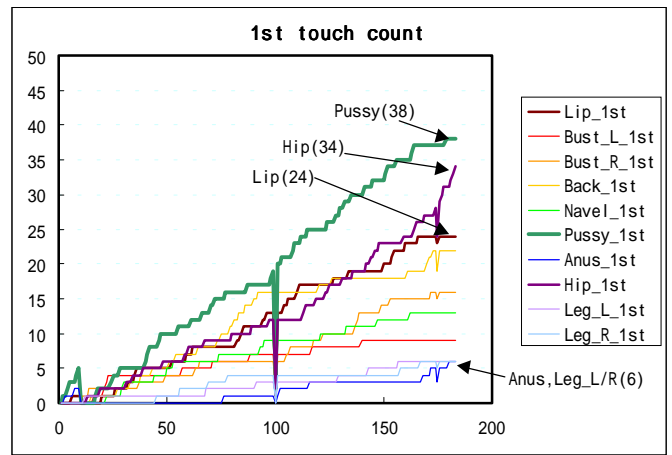


図3 最初に触った部位の集計トレンド

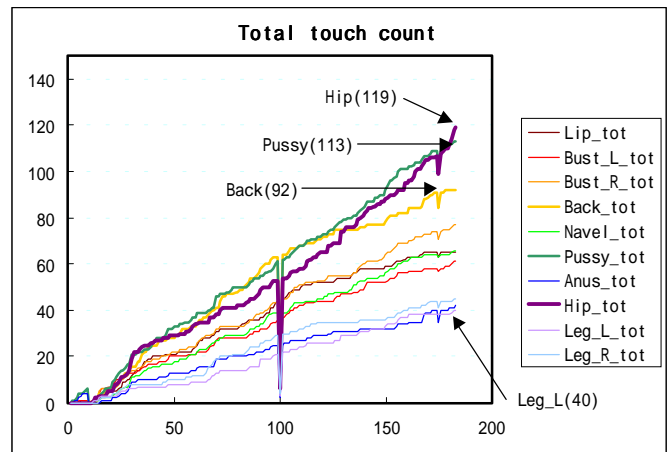


図4 部位別の全おさわりの回数トレンド

辺への関心が高まっていくことが結果からも明らかである。

極端に少ないのが大腿部や肛門である。さすがに、最初から「しりのあな」に触りにいく者は少ないと見える。

### まとめ

ホームページに性的関心度を計測するカウンタを設置し、おさわりの回数を計測した。結果、このカウンタが人間の性行動を誘導していることが推測された。最初の作業仮説である「エロが見たいからインターネットする」は人間の行動原則から考えて自然で妥当であり、人類文明が欲望をエネルギーとして発展してきた証左でもあろう。

### 参考文献

- 1) つきなみ COMICS サイト  
<http://www2r.biglobe.ne.jp/~TSUKI/index.html>
- 2) とほほのホームページ  
<http://www2e.biglobe.ne.jp/~s-hasei>
- 3) 技術評論社・HTMLポケットリファレンス